

第 5 学年 1・2 組 図画工作科学習指導案

平成 22 年 9 月 21 日 (火曜) 第 6 時限
指導者 小崎 真

1 単元 これって、何！？～作品のなぞを探ろう～（表し方の広がり）

2 単元観

- (1) 本単元は、愛知県美術館等を会場に開催されている「あいちトリエンナーレ 2010」の中で、屋外展示されている草間彌生の作品『求道（ぐどう）の輝く宇宙』等を実際に鑑賞させ、現代美術の「表し方の広がり」について考えさせることをねらいとする。『求道の輝く宇宙』は、名古屋栄のオアシス 21 にある“水の宇宙船”の水が入っている場所に、カーブミラーの鏡の部分（直径 60～100cm）を 120 個分を上向きに沈めて設置したもので、「湾曲した鏡」の部分に空や周辺の建物が上下左右反転して映り込む様子を見ることができ、また、カーブミラーが水に沈められているため、水面が風で揺れる度に映り込んだ像が揺れたり、水面に映り込んだ像が同時に見えたりして、見慣れた風景を普段とは異質なものとして捉えることができる。

草間は、本学年の児童と同じ 5 年生の頃から、全てのものに「水玉」が見えてしまうことに悩まされ、その様子を絵などに表現することで精神を安定させており、作者のモチーフとして「水玉」は繰り返し表現されている。その「水玉」をモチーフにした立体作品が、愛知県美術館で他にも 4 点（『草間の水玉プリウス』『命の足音』：屋外展示作品、『真夜中に咲く花』『Pumpkin』：屋内展示作品）が展示されており、児童が草間の作品と親しみ、鑑賞できる良い機会でもあると考える。

大人でも簡単には理解しにくい現代美術作品が多い中で、児童にとって身近な「カーブミラー」を使った『求道の輝く宇宙』は、120 個並べられることで草間のトレードマークでもある「水玉」となっており、他の草間の作品に見られるある種の毒々しさとは異なり、児童にとって親しみやすい作品として共感を呼ぶことであろう。本作品の鑑賞学習を通して、児童が美術作品と親しみ、意欲的に作品と関わる姿を期待したい。

- (2) 本学年の児童は、美術の作品に触れる機会がほとんどなく、せいぜい、複製図版やテレビの映像としてごく希に間接的に見るという場合が多いと思われる。むしろ、児童の視覚的な経験は、より高度な技術でリアルに表現された、バーチャルで刺激的な映像文化に埋め尽くされた中で、受け身的に消費するだけの貧弱なものにならざるを得ない。

そのため、自分の感性を働かせながらじっくり見て考えたり、良さを味わったりするという経験に乏しく、瞬間的に、あるいは短絡的に自分の都合のいいように物事を捉えたり、判断してしまったりするという傾向につながっていることは否めないであろう。そのような児童が、積極的に自分の目で見たり頭で考えたりすることを要求される現代の美術作品に対して、興味や関心が低くなってしまふのは当然とも言える。仮に作品を見たとしても、深く考える機会がないため、「何が言いたいのか全く分からない」「つまらない」と簡単に美術作品を敬遠してしまうであろう。そうすると、児童は芸術や文化に対して意識が低いまま大人になってしまい、いつまでも美術作品を敬遠し続けるだけでなく、想像力豊かに物事を自分の頭で考えたり、読み取ったり、味わったり、議論したり、判断したりするという機会を失うことになる。

そこで、美術作品の鑑賞に疎遠になりがちな児童に対し、本単元の学習を通して「作品に興味や関心を持ち、まずはじっくりと本物の作品を自分の目で見て、じっくりと自分の頭で考えて自分の感性を働かせながら作品の世界を味わい、友達との語り合いの中で自分なりの見方や考え方を広げ深めていく。」という姿を期待したい。

また、本学年の児童は、普段の授業で自分の考えを友達に伝えることを苦手とする傾向がある。そこで、作品鑑賞の授業を通して、「自分なりの考えを持ち、自分のことばで表現する」という言語活動を充実させ、個々の学びを広げ深めさせたい。そのために、自分の目と頭をしっかりと働かせさせ、自分なりの見方や考え方を大切にさせながら、授業で互いの考

- え方を共有させ認め合わせたい。そして、個々の気づきを受け入れながら支援し、自分の考えに自信を持たせ、自分のことばで作品について語ることができる児童の育成を図りたい。
- (3) 本物の作品を見たからと言って、児童はすぐに作品に愛着を持ったり、作品に対する見方や考え方が自然に広がったり深まったりするわけではない。じっくり観察し、ゆっくり考え、様々な資料や他者の考え方を参考にしながら作品世界と関わり、個々の作品に対する理解を徐々に深めていくことであろう。

そこで、本単元では、段階的に児童の興味や関心を高めさせたり、作品に対する見方や考え方を深めさせていくために、「出会いの段階」「共有化の段階」「主体化の段階」という3つのステップを踏むことにした。

まず、「出会いの段階」では、草間の作品のカーブミラーに映った一部分の図版を児童に提示し、見つけたこと、気がついたこと、わからないことを書き出させる。

次の「共有化の段階」では、さらに提示する資料を工夫して、個々の気づきや疑問を互いに共有させる。そして、実際に本物の作品を鑑賞させた後、作品からの気づきや作品に対する疑問を話し合わせることで、個々の考えを練り合わせ、高め合わせる。

最後の「主体化の段階」では、同じ作者の他の作品や、別の作家の作品を鑑賞させながら、現代の美術作品を「もっと見てみたい」と進んで鑑賞ができるようにさせたい。また、授業の終末に「作者に手紙を書く」という場を設定することで、児童と同じ現代を生きる芸術家を身近に感じさせたい。

また、児童は作品を見る際に、個人的な経験やイメージをもとにした「見立て」という創造的な鑑賞と、「客観的に説明できる内容」という分析的な鑑賞を行う。「個人的な見立て」を大切にさせながらも、草間彌生という現代を生きる芸術家が表現したかった意図を、児童個々が作品から読み取ったり感じたりした内容をもとに、話し合わせ、共有させながら考えを深めさせたい。

3 目標

- (1) 作品に対して興味や関心を持って関わり、作品について進んで自分の考えを発言する。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自分の感性を働かせながら作品をじっくりと見ることで、自分なりの考えを持ち、自分のことばで表現したり、友達の考えを聞いたりしながら、自分の見方や考え方を広げ深めることができる。
(鑑賞の能力)

4 指導計画(5時間完了)

- 第1時 草間彌生の作品『求道の輝く宇宙』の一部分の図版から、見つけたこと、気がついたこと、考えたことなどをワークシートに書き出す。
- 第2時(本時) 作品の一部分の図版から見つけたこと、気がついたこと、考えたことなどを発表し合い、作品についての見方や考え方を深める。
- 第3時 話し合ったことをもとに本物の作品を鑑賞する。(社会見学)
- 第4時 本物の作品を見て気がついたこと、考えたことなどを発表し合い、作者の制作意図について個々の考えを深める。(社会見学)
- 第5時 同じ作者の他の作品や、違う作者の作品を鑑賞する。(社会見学)

5 本時の指導

- (1) 目標 『求道の輝く宇宙』に興味や関心を持ち、進んで作品を見ようとする。
(関心・意欲・態度)
作品の一部分の図版から見つけたこと、気がついたこと、考えたことなどを発表し合い、作品についての個々の見方や考え方を深める。(鑑賞の能力)
- (2) 準備(教) 『求道の輝く宇宙』の図版、ノートパソコン、電子黒板、氏名マグネット、カーブミラー、ビデオカメラ、デジタルカメラ、ビデオテープ
(児) ワークシート、たんけんバック、筆記用具
- (3) 指導過程

学 習 の 流 れ	教師の働きかけと支援・留意点	評 価
<p>1 学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>写真から自分が見つけたこと、気がついたこと考えたこと、わからないことを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりして、写真のなぞを考えよう。</p> </div>	<p>学習のめあてをホワイトボードに書き、確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいを知ることができたか。(観察)
<p>2 ワークシートに書いてある内容を確認して自分の考えを発言し、友達の考えを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この写真をどこでとったのかわからない。 ・ 変なタワーがある。 ・ あやしいかげがある。 ・ 写真がぶれている。 ・ 天気が晴れている。 ・ UFO みたいに見える。 	<p>ワークシートに書いた内容で、自分が友達に紹介したい内容を考えさせた後、発言させる。</p> <p>電子黒板に、前時に紹介した図版を拡大したものを提示する。</p> <p>「場所」「塔」「かげ」「ゆがみ」「風景」「見立て」などの項目ごとに発言させ、発言させ、板書する。</p> <p>新しく見つけたり、考えたりしたことを発言してもよいことを知らせる。</p> <p>分かりにくい部分は、児童に電子黒板に表示された図版を指で示しさせて説明させる。</p> <p>氏名マグネットを使い、発言した児童が分かるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が写真から、見つけたり気がついたり考えたりした内容を積極的に発言したり、友達の考えを聞いたりすることができたか。(発言内容・観察)
<p>3 別の資料を見て、見つけたこと、気がついたこと、考えたことを発言し、聞き合うことで個々の考えを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>もう少しまわりの様子が分かる別の図版から見つけたこと、気がついたこと、感じたことなどを発言しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丸い鏡に映っている。 ・ 上下が反対かもしれない。 ・ 水の中に鏡が沈んでい ると思う。 ・ 名古屋のテレビ塔が丸い鏡に映っていると思う。 ・ あやしいかげは水面に映ったテレビ塔だと思う。 ・ もう1枚鏡が向こう側にある。 	<p>意見が出尽くしたところで、多くの発言ができたことを褒めて認める。</p> <p>前時の図版より広い部分が分かる別の図版を電子黒板に提示し、見つけたことなどを発言させる。</p> <p>ここではワークシートには書かせず、すぐに個々の意見を出させる。</p> <p>発言内容はホワイトボードに書き込む。</p> <p>鏡に映った像が、普段見慣れた栄の風景が上下左右反転し、歪んでカーブミラーに映っていることに気づかせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで作品の図版を見て、見つけたことや気づいたことを発言したり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを深めることできたか。(発言内容・観察) </div>

4 丸い鏡(カーブミラー)の実物を提示し、どのように見えるかを実際に確認する。	カーブミラーを提示し、横に寝かせてみるとどのように像が映るかを体験させる。	・カーブミラーに映る像のおもしろさに気づくことができたか。(観察)
5 本時の授業を受けて新しく気づいたこと、考えたこと、感じたことなどをワークシートにまとめる。	ワークシートを配付し、本時の感想を記入させる。 数名の児童を指名し、感想を述べさせる。	・本時の学習を振り返ることができたか。(ワークシート)
6 次時の予告を聞く。 この作品が明日の栄のオアシス21に展示しており、実際に鑑賞することを知る。	次時の学習について説明する。	・次時の学習について知ることができたか。(観察)

(4)板書計画

見つけたこと、気がついたこと、考えたこと、わからないことを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりして、写真のなぞを考えよう。				
場所 ・どこ？ ・遠くから写真をとっている 塔 ・東京タワー？ ・とうが小さく見える	ゆがみ(鏡) ・線がふにゃふにゃ ・さかみちみたい	かけ(水) ・2つの写真が重なっているみたい ・ぼやけている ・曲がっている ・ゆがんでいる ・あやしいかげがある	風景 ・晴れている ・雲がある ・左はがけ？ ・家がある ・緑がある ・人がいない	見立て ・かけが女の子みたい ・UFOみたい

(5) 本時の視点

- ・児童は意欲的に自分の考えを発言したり、友達の考えを聞いたりして、自分の見方や考え方を広げたり深めたりできたか。
- ・資料の内容、提示のタイミングは良かったか。
- ・作品について意見を出し合ったり、図版を見たりすることで、作品鑑賞に対する意欲を高めることができたか。